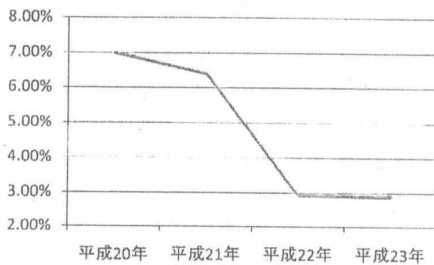


Hospital & Clinic

人工呼吸器患者50人超

褥瘡ハイリスク患者が増え始めた
平成20年からの有病率の推移



年内90人受け入れへ

褥瘡院内発生ゼロ

豊平区の札幌ライラック病院（志田一彦理事長、下村晴信院長・百六十七床）は、四年前から受け入れを開始した人工呼吸器装着患者が五十人を超えた。大半は離床できず褥瘡発生リスクが高い中、院内発生ゼロを継続するとともに、全病室にエアコンを設置する院内改修にも着手。入院を検討する市内外の患者家族に「選ばれる病院」を志向し、年内に九十人の受け入れを目指す。

札幌ライラック

褥瘡ハイリスク患者の増加に伴い、二十二年四月から畑大医師を中心一回の病棟ラウンドを開

に褥瘡委員とNSTの合同委員会を立ち上げ、月に褥瘡ハイリスク患者の増加に伴い、二十二年四月から畑大医師を中心一回の病棟ラウンドを開

こうした取り組みが功を奏し、ハイリスク患者が増えているにもかかわらず、院内発生は見られず、有病率は三%にまで低下した。この成果を、ケアの質を評価する指標として、患者家族や紹介元の医療機関へアピールしていきたい考えだ。

双方が情報交換を行い多方面から褥瘡を評価し、危険因子調査に基づく個別の治療方針や処置方法の検討に取り組んでいる。日々の身体状況の観察強化をはじめ、ポジショニング勉強会の実施、体位交換の徹底、体圧分散マットレス活用など発生予防、早期発見・治療を推進。「持ち込み褥瘡」も少なくない中、早期アセスメントによって悪化させることなくケアできているという。

一方、療養環境改善の一環で、人工呼吸器からの排熱による室温上昇を管理し病状安定を図るため、全四十九病室にエアコン設置などを主体とした改修工事に着手した。併せて、理学療法室と作業療法室を合併、各種在宅サービス事業の事務所を統合し、患者情報の共有化と効率的な入院調整、在宅療養生活支援を強化するほか、大型ボイラー二基を更新し、冬季の室温管理に備える。いずれも八月をめどに順次稼働させる予定。